

感性や想像力を働かせ、自分なりの意味や価値をつくりだす授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習活動の例と対応

- ① 各学年段階における指導事項や内容の取扱いと、指導上の配慮事項及び学習経験を踏まえるとともに、表現及び鑑賞の能力を発揮している具体的な児童生徒の姿を想定し、指導計画を作成する。
- ② 児童生徒自らが生み出した表したいことや主題を基に表現したり鑑賞したりできるよう、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを明確にする。
- ③ 題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、指導に生かす評価と記録に残す評価の場面を精選し、児童生徒の学習状況を適切に見取り、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす。
- ④ 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させられるように、造形的な視点で捉える時間や場を充実させるとともに、児童生徒の見方や感じ方等の価値付けを図る。

表したいことを基に表現したり鑑賞したりする学習活動の例

小学校第1学年

題材名 さわって、はって、えがいてみよう
「絵や立体、工作」

◇題材の目標(一部)

- (1) お花紙やのりの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に、表し方を工夫する。

[技能「A表現」(2)イ]

◇題材の主な学習活動(全4時間)

【第1時】

- お花紙を触って、よさや特徴に気付くとともに、どんなことができるかを試し、表したいことのイメージをもつ。

【第2～3時】

- 自分が表したいことを基に、画用紙にお花紙を貼り、工夫して絵に表す。
- 互いの表したいことを基に、よさや感じたことを伝え合い、製作に生かす。

【第4時】

- 完成した作品を互いに見合い、よさや工夫を伝え合う。

題材における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

<個別最適な学び>

指導の個別化

お花紙を使った「わざ」を、自分で見付ける、友達の「わざ」を参考にする、ヒントカードを参考にするなどから選んで活動し、表現の幅を広げる。

学習の個性化

自分の表したいことを基に、各自のめあてを設定し、見通しをもって活動する。

<協働的な学び>

互いの作品を見たり、考えを交流したりすることで、造形的なよさやもしろさ、表現の意図等について見方や感じ方を広げる。

◇本時のねらい(3/4)

自分の表したいことに合わせて、お花紙の形や色などの表し方を工夫して表す。

<前時までに製作した互いの作品を友達と鑑賞し合う場面>

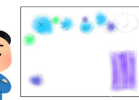
T: お花紙でできる「わざ」をたくさん見付けましたね。

ふわふわ	ねじねじ	びりびり
ころころ	もりもり	おりおり

どの「わざ」を使って、どんなことを表そうとしているかを紹介しましょう。

S1: 私は「ころころ」のわざを使って丸めたお花紙を並べたら、家が並んでいるように見えたので町を表そうと思いました。「たのしい町」にしたいです。

S2: いろいろな大きさや形の家やビルが並んでいるように見えますね。ほかの色もあった方が楽しい町の感じになります。

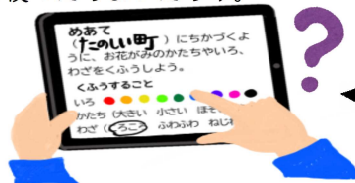


<協働的な学び>

- ・各自が試して見つけた「わざ」などを共有し、よりよい表し方を考えることができますようにします。
- ・自分の表したいことを基に、他者の見方や考えを聞くことで自分の表したいことに近づくためには、どんな工夫をしたらよいか、課題を見いだすことができますようにします。②

<自分のめあてを設定し、活動の見通しをもつ場面>

S1: もっと「たのしい町」に近づくように、色を工夫してみよう。楽しい感じにするにはどんな色を使ったらよいだろう。



T: (モニタリング機能を活用して状況を把握)
前に色紙並べをした時の写真を見てみましょう。「楽しい感じ」がしたのは、どんな色を使ったときだったかを思い出してみましょう。

<個別最適な学び>

- ・各自の表したいことに近づくことができるように、めあての設定や活動の見通しをもつ場面を設定します。児童の発達段階に応じて、ワークシートの形式等を工夫し、一人一人の考えや状況を把握することで、価値付けや指導に生かすことができます。

ICT1③

◇評価規準

自分の表したいことに合わせて、お花紙の形を変えたり色を選んだりするなど、工夫して表している。

【技能】(観察、対話、作品、ワークシート)